

「より安全に登山を楽しむために！」

講師 埼玉県警察山岳救助隊 工藤 大介 副隊長

2020年1月18日（土）埼玉会館にて、埼玉県警察山岳救助隊工藤大介副隊長をお招きして講演会を開催した。

1. 埼玉県警察山岳救助隊は32名（秩父20名、小鹿野7名、本部5名）いるが、普段は制服を着て拳銃をつけて交番などに勤めている。遭難事故があると着替えて出動する。出動して3日程度は最大限の人員を出せますが、それ以降は徐々に捜索人員を減らしていきます。

2. （昨年度の遭難件数は未発表で）一昨年は、日本全国で約2660件遭難事故があった。埼玉県内では50件あり、6名死亡、3名行方不明。そのうち70代が27%、60代が23%で、高齢者が半分をしめている。全体として、登山者人口の高齢化が進んでいる感じがする。

資料として配られた山岳遭難状況の一覧表から、代表的な事故について詳しい説明をしていただきました。

3. 単独で入山、遭難した（家族から帰ってこない）場合、どこの山に行ったのかわからないことが多い。



埼玉の鉄道、バスの事業者の協力で、下車駅や入山口がわかり、捜索場所を狭めることができているが、どうしても初動が遅れてしまう。

- ① 家族などに、どこの山に行くか、しっかり伝える。
- ② 天気や時刻遅れなどから、山を変えることも多いので、入山口や駅でメールを打つ。
- ③ 途中でもメールを打ち、今ここ、今ここと伝えて、リスクを減らす必要があります。

4. 岩のゲレンデで、死亡事故が2件ありました。岩場では事故が死亡に直結しますので、道具のチェックを確実にしてください。

5. 伊豆が岳で道迷い防止ロープを無視して入り遭難した、初歩的な事故が2件ありました

6. 熊についての質問があり、昨年はどんぐりが不作で、熊や猪がふもとにおりてきている。また、熊倉山や浦山ダムの近くで、熊の生活痕がよくみられる。

7. インターネット活用について

- ① みんなの足跡・・・山と高原地図のオンラインロードマップツールを使ったビッグデータ。道迷いの特徴的な場所がわかる。
- ② 青森県警察・・・ヘリからの見え方。ヘリが近づいたら木をゆらしたりタオルをふる。
- ③ 山梨県警察・・・救助ビデオ。基本ヘリで捜索、救助。

8. 埼玉県警察山岳救助隊紹介のビデオ 厳しい状況での救助活動の紹介をみる。

9. 最後に、山登りは周りの人から見れば、リスクのあるスポーツ。山に入るときは、それなりのリスクを考えて準備をきちんとしてほしい。遭難事故（行方不明）があると、本人も大変だが家族も大変です。

飯塚雅信記